

気候変動対策-「緩和」と「適応」-

気候変動の影響は、自然環境ばかりでなく私たち人間の暮らしや活動に深刻な影響を与えると予想されます。気温上昇による農作物への影響や熱中症搬送者数の増加といった健康への影響、過去の観測を上回るような短時間強雨、台風の大型化などによる自然災害などが挙げられます。

これまで広く知られてきた「緩和策」には、自動車からの排ガス抑制や電灯のLED化など、温室効果ガスの排出量を減らす取組みがあります。それに加えて、これからの時代は、気候変動が起きても私たちの暮らしをできるだけ持続可能にするために、災害リスクを考慮した土地利用や住み方、熱中症への予防・対処法などの「適応策」が重要になってきます。

その適応策の一例として、夏季の高温時に熱中症特別警戒アラートが発表された際に誰もが一時的に避難できる場所として、「クーリングシェルター」が各地で設置されています。これらの施設は、公共施設や商業施設などを活用し、冷房の効いた空間を提供することで、熱中症のリスクを軽減する役割を果たしています。特に高齢者や子どもなど、暑さに対して脆弱な人々の健康を守る手段として位置づけられています。

緩和とは？

原因を少なく

2つの

気候変動対策

適応とは？

影響に備える

緩和策の例

節電・省エネ
エコカーの普及
再生可能エネルギーの活用
森林を増やす
温室効果ガスを減らす

適応策の例

感染症予防のため虫刺されに注意
熱中症予防
災害に備える
高温でも育つ農作物の品種開発や栽培
水利用の工夫

気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

出典：気候変動適応情報プラットフォーム